

「心の中に故郷の景色」被災者と合唱で笑顔に 第2回スマイル大合唱フェス

合唱で人々を笑顔にしようという「第2回スマイル大合唱フェスティバル」が18日、東京芸術劇場（東京都豊島区）で開かれた。東日本大震災で被災した宮城県南三陸町の町民らが招かれ、参加した約1800人は唱歌「故郷」や童謡「ちいさい秋みつけた」など14曲を歌い上げた。

首都圏を中心に計約300団体が活動する「スマイル合唱団」を支援するNPO法人「音楽で日本の笑顔を」が主催。会場ではプロ歌手が歌声を披露した後、オーケストラの生演奏とともに会場全体で合唱した。

南三陸町の41人はステージ上で2曲を熱唱。経営していた食堂と親友を津波で失ったという同町の主婦、小山てい子さん（67）は「傷は癒えないが、心の中に故郷の景色を思い浮かべた」と笑顔をみせた。横浜市の主婦、今井明子さん（78）は「心を一つにできる歌の力を感じた」と話した。



ステージで「手のひらを太陽に」と「ふるさと」を合唱した南三陸の合唱団の方々
= 18日午後、東京都豊島区西池袋の東京芸術劇場（鈴木健児撮影）（写真：産経新聞）